

# 5月24日に打ち上げ予定の「だいち2号」の機体が公開される

大地にも、精密検査が必要だ。



地殻変動や環境破壊など刻々と変わる地上の様子を「Lバンド地表可視化レーダ」で観測

宇宙航空研究開発機構(JAXA)は28日、H-IIAロケット24号機に搭載されて打ち上げられる予定の陸域観測技術衛星「だいち2号」の機体を種子島宇宙センターで公開しました。

「だいち2号」は、東日本大震災で地上の様子を撮影するなど、多くの成果を上げて2011年5月に運用を終えた「だいち」の後継機です。「だいち」と同じ高度約690kmの極軌道(北極と南極を通る軌道)に投入され、14日ごとに同じ地点の上空に戻ってきて観測を行います。

「だいち2号」の観測データは災害監視、森林観測等の幅広い分野で利用されることで、暮らしの安全の確保、地球規模の環境問題の解決など私たちの日常生活の様々な場面で役立てられます。

打ち上げは信頼と実績のH-IIAロケット

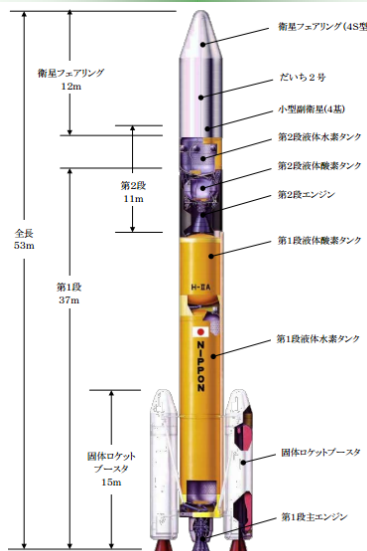
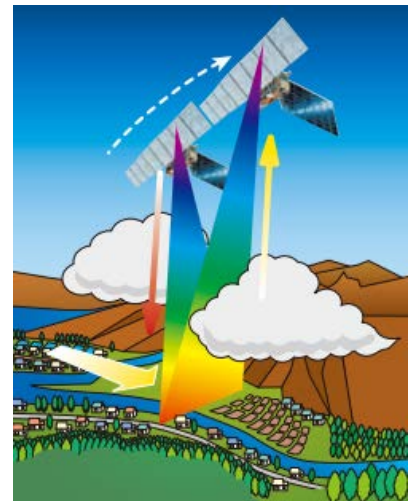


図-6 ロケットの形状 (H2A202型)

H-IIAロケット24号機は「だいち2号」、小型副衛星(ピギーバック衛星)4基を搭載し、種子島宇宙センター大型ロケット第1射点より打ち上げられる。



地表可視化レーダから地上に向けて電波(マイクロ波)を放射し、反射されたマイクロ波から山や谷の凹凸、海の波の高さを調べる。雲の影響を受けないため、天気や昼夜に関係なくいつでも観測できることが特徴。

さらに詳しく知りたい方はこちら

fanfun!JAXA「だいち2号」特設サイト  
<http://fanfun.jaxa.jp/countdown/daichi2/index.html>